

総合工学委員会原子力安全に関する分科会  
社会のための継続的イノベーション検討小委員会  
第25期・第9回議事要旨

令和4年10月14日

作成 澤田 隆

1. 日時 令和4年9月15日（金）10:00～12:00
2. 会場 遠隔会議 オンライン開催
3. 出席者 松岡委員長、越塚副委員長、小野、関村、矢川、佐倉、白鳥、宮野、山本、澤田（吉村、中村欠席）
4. 配付資料
  - 資料1 前回議事録
  - 資料2 報告案\_20220903山本改+松岡追記報告案
  - 資料3.1\_宮野先生コメント回答20220903 宮野追記
  - 資料3.2\_宮野コメント2 2022-8-7 社会のための継続的イノベーション
  - 資料3.3\_宮野コメント4 2022-8-7
  - 資料4 報告案\_20220903山本改+松岡+小野追記（当日配布）
  - 参考 前回議事メモ
5. 議事
  - 1) 議事録確認（資料1）
    - ◎議事録を確認した。コメントなく了承された。
  - 2) 山本改訂案の審議
    - ◎宮野委員コメント（資料3.1）を反映した資料2の改訂部について山本委員より概要説明があり、意見交換を行った。以下に内容を示す。
      - ・これからは社会のニーズをどう吸い上げるかの仕組みの議論が必要ではないか？
      - ・社会のニーズを吸い上げる仕組みを作るべき。どう作っていくかの議論が必要。
      - ・「エコシステム」とは？ 社会とシステムが互いにフィードバックしあい共存するシステムである。もともとは生態系の用語。色々なステークホルダー(部分)が集まった時に、生態系に習って上手く行くよう全体を考えること。
      - ・一方向ではなく、技術と社会の相互作用と考えるべき。社会の変化を捉えて技術も変わるべき。システムのスパイラルアップが必要。
      - ・「社会のニーズ」という記載が抽象的。産業と国民のニーズは異なる等、社会のニーズは多様。
  - 3) 松岡委員長改訂案の審議
    - ◎宮野委員コメント（資料3.2）を反映した資料2の改訂部について松岡委員長より概

要説明があり、意見交換を行った。以下に内容を示す。

- ・再生可能エネルギーに関し、社会システムとして全体のことを考えている部署（？）がない。
- ・技術と社会のギャップを技術で埋められなければ、社会が変わる必要があるのでは？
- ・ハードではなく、システムとして需給バランスをどう取るか考えている必要がある。
- ・巨大噴火は何を議論すべきか？ とらえ切れないリスクに対してどう考えるか？ 原子力だけでなく、一般社会としてどう捉えるべきか？
- ・将来、新知見が出たらどう対応すべきか？ バックフィットに言及する必要があるのでは？

#### 4) 小野委員改訂案の審議

◎宮野委員コメント（資料 3.3）を反映した資料 4 の改訂部について小野委員より概要説明があり、意見交換を行った。以下に内容を示す。

- ・人々がリスクに慣れていく過程を、報告書全体の指摘として前段に盛り込むべきでは？
- ・ガバナンスはトップダウンだけでなく理解と合意が必要であり、政策決定の仕方でもある。
- ・mRNA ワクチンの開発のイノベーションの論点をもう少し詳しく記述すべきではないか？
- ・上手くいった例だけでなく、問題点や教訓はないか？
- ・コロナでは、最初の予測（架空）のリスクから、顕在化した（現実の）リスクに変わった。架空のリスクは、現実のリスクに比べ何桁も恐れられる。このため、当初架空リスクだったため恐れられていたものが、次第に現実リスクとなって恐れが小さくなったと考えられる。
- ・コロナでは、全ての人がリスクへの対応を迫られた。一方、原子力については、一部の人のみがリスクへの対応を迫られる構造となっている。この違いが本質的。

#### 5) 全般

- ・ステークホルダー全般に読んでもらうには、内容が技術系専門家向きで難しいのではないか？
- ・委員長が本日の議論に基づき、全体の構成をもう一度見直す。
- ・9/21 の分科会で原案として説明する。
- ・年内に原案を完成し、第三部に審議して貰う工程を進める。
- ・原子力総合シンポジウムで発表する方向を進める。

#### 4) 今後の進め方について

- ◎ 意見交換の内容に基づき、内容の整理と検討を進める。
- ◎ 次回は委員長が別途メールで日程を調整する。

以上